

中学生が考える付加価値は？

スタートアップの意識を持ってもらおうと始まった中学生向けのスタートアップスクールのお手伝いをしました。

☆キーワードは「不」

何にどんな付加価値を付ければ、買ってもらえるだろう？をキーワードにして事業のタネを考えました。

今回は「不」を感じるものに解決策としての付加価値をつけた商品を考える。ということチームでアイデアを出し合いながら進めました。

☆どんな「不」？

身近な「不」といっても人それぞれ。去年は、食事についての不満だったり、お母さんが困っていることだったり、アナログ的な内容が多く出ました。

今年は、デジタル系の「不」が多く出ました。授業中にAI使えない、スケジュールがデジタルにストックされているので、時間になったら教えてくれるものなどでした。

アイデアを出し合っている中で、対象となる場面を広げて考えると、聴覚障害の人にも使ってもらえるアイデアが出てきました。ステイブ・ジョブズにあこがれている中学生に、「iPhoneは障がいを持っている人の手助けになるように考えられたらいい」と伝えると、さらに喜んでいました。

ここから未来のステイブ・ジョブズが生まれるかも！

☆参加した中学生の反応は…

宿題として持ってきたアイデアが、みんなで話し合うと、こんなにいいものができると思っていたいなかった。楽しかった。

一人で考えるよりも、チームで話し合うと実現したいと思うようないいアイデアになった。

など、アイデアがブラッシュアップされるプロセスを見たり、簡単なプロトタイプ（モックアップ？）を作ってみると、より現実味がでてきたりと、デジタル空間のことだけでなく、ものづくりへの意欲が湧いてきたようでした。

一緒にいる大人も気持ちが向上して、より楽しい時間と空間ができました。

*中学生に刺激されて、大人もいろいろなことの挑戦してみよう！という気持ちになれました。そして、中学生の表情がみるみる内に変化していく場にいられました。とても貴重な時間になりました。そんな場にいられたことに感謝しております。

